

愛 労 連

愛知県労働組合総連合

名古屋市熱田区沢下町9-7
労働会館東館3F
TEL 052-871-5433
FAX 052-871-5618
URL http://www.airoren.gr.jp
発行人 樽松佐一
第181号 2008年8月10日

愛労連第1回評議員会

とき 9月6日(土)13:30から
ところ 労働会館本館2F会議室

愛労連組織拡大決起集会

とき 10月12日(日)10:00から
ところ 労働会館東館ホール



愛労連 第39回定期大会

潮目の変化を本物に

愛労連は7月21日、名古屋市内の日本ガイシフォーラムで第39回定期大会を開催し、代議員や傍聴など約200人が参加しました。

最初に羽根克明議長が幹事会を代表してあいさつ。来賓には全労連の小田川義和事務局長、愛知県商工団体連合会の太田義郎会長、日本共産党愛知県委員会の岩中正巳委員長らが駆けつけ、激励と連帯のあいさつを送りました。

議案の提案では、樽松佐一事務局長が、昨年の参議院選挙以降のたかひで築いてきた情勢の変化について、トヨタ内野裁判やイラク派兵差止め訴訟の勝利、後期高齢者医療制度への怒りの広がり、粘り強く奮闘している組織拡大などに触れながら活動の総括と到達点を明らかにしました。運動方針では財界・大企業の社会的責任追及と賃金・雇用など働く人々の権利、2年目となる組織強化拡大第2次3カ年計画の推進、憲法改悪阻止、平和を守るための安全・安心な公共サービスを守り、大増税反対、国民のいのちとくらしを守る運動などを提案しました。

争議団紹介では愛労連の支援する争議団が揃い、争議の早期解決をめざす決議を全員の賛成で採択、たまたか仲間を激励しました。組織拡大では、純増で大会を迎えた7単産に組織拡大表彰が行われました。

討論では15単産、6地域労連、2補助組織から35人が発言し文書発言も3人からありました。基本的には幹事会の提案する方針を支持・補強するものでした。

採決では、第1号から3号までの議案と大会宣言が全会一致で可決され、新しい36名の役員を選出。最後に羽根議長が閉会演説を行いました。(詳細はp.4面)

願いと運動大きく交流

第54回日本母親大会in愛知に15,000人が参加



19年ぶりに愛知で開催された第54回日本母親大会。2日間延べ1万5000人が参加し大きく成功しました。

7月26日は名古屋工業大学や公会堂、つるまいプラザの3会場で7000人が参加。38の分科会とシンポジウムで「憲法9条守れ」や「後期高齢者医療制度の廃止」などの運動が交流されました。

27日は、ポートメッセなごやで全体会が開かれ8000人が参加しました。各地の代表がたたかいと行動で政治と社会を動かしてきたとくみを紹介。愛知からは、業者婦人から「トヨタの減税のためには消費税が使われている。引き上げは許さない」との決意表明や大山市の学力テストを許さないたたかいに会場から大きな拍手が送られました。

愛労連では大会成功に向けて、女性協内母親大会実行委員会を5回開き、実行委員会に加入していない組合を含めて、参加のとりくみを交流・強化させてきました。

男性の要員も猛暑の中、交通案内やパレードの統制、会場設営、会場案内など、大会の成功のために奮闘しました。

情勢は、「新自由主義」「構造改革」の政治路線と、労働者・国民のたたかいの「せめぎ合い」の中にある。

昨年の参議院選挙で自・公が大敗北し、様々な分野で変化が起きている。「宙に浮いた年金」「後期高齢者医療制度の導入」「ガソリン税の再引き上げ」など政治に対する国民の怒りはますます大きくなっており、総選挙で国政の転換に結びつけ、来年4月の名古屋市長選挙でも政治を変えるため全力を尽くす。

「貧困と格差」が広がる

議長あいさつ

変化をいかし運動 前進と政治転換に



愛労連議長 羽根克明

もとで、テレビではワーキングプアーや派遣労働など非正規雇用の実態や外国人労働者問題などが報道され、新聞は相次いでトヨタの特集を連載

をなくすため、関心が高まっているこの情勢を背景に、最低賃金の大幅引き上げ、派遣法の抜本見直しを勝ちとろう。

昨年12月、トヨタ内野に引きつづき大企業の社会的責任を追及するたたかいを強める。

憲法と平和を守るたたかいでは、名古屋高裁で自衛隊イラク派兵は憲法違反とする画期的な勝利を勝ちとった。全国7000、愛知で3000を超える九条の会の活動が、じわじわと地域に浸透している。引きつづき宣伝

や署名を強めよう。原爆症認定訴訟の前進や有明海諫早湾潮受け堤防の開扉判決など労働者・国民の運動は着実に前進し、これらの変化をさらなる運動の確信にしていける必要がある。

最後に労働組合に対する期待と関心にも変化が現れている。労働相談は月150件を超え、倍以上に増えている。厳しい雇用と労働のなかで、労働組合に対する期待や関心が高まりつつある。新入組合員獲得運動でも変化が現れている。引きつづき奮闘しよう。

こらも

愛労連定期大会が終わると同時に、連日35度を越える真夏日を迎えている。夏八テ防止は、食事と睡眠をキチンととることに限る。ところで、私はこの時期、毎年思い出すことがある。もう40年前のドキドキ「ウナギ釣りの思い出」だ。餌取りで少年たちは、頭をひねりすばらしい道具を作った。餌は、ヨシノボリ(ハゼのような魚)。箱メガネで川底を覗き網ですくうのだが、ヨシノボリは、小さいうえ、石と石の間にいたり、丸い岩に這いつくばっているため、市販の網目の大きなものや、直径が大きな網ではうまく取れない。そこで考えたのが、玉葱などが入っている赤い網袋だ。それを適当な大きさに切って、針金を通す。持ち手は山で取ってきた細い竹で、面白いほど取れた。ウナギは夜行性のため、夕方、よしのぼりを針につけて、糸を右に巻きつけ、寝床にしそうな石のそばに置く。その夜、今頃は、俺の餌を食っているな。なんて想像すると、眠れない。翌朝4時頃、仕掛けを見に行くと、50本仕掛けて、多いときは20匹くらい取れた。産地偽装ウナギがニュースになったが、天然の取れたてのウナギほど贅沢な食材はない。今夏は少年に戻って、ウナギ釣りをやり、超豪華蒲焼を食べ、バテ知らずに楽しい夏を過ごそうと思つ。(ヒロ・スローライフ)

